

# [第 113 回藤樹人間学塾のご案内]



皆さま

令和3年3月

NPO法人高島藤樹会

- 日 時 令和3年4月3日(土) 15時～17時
- 場 所 高島市安曇川公民館(高島市安曇川町田中89)
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」  
テキスト 中江藤樹著・西晋一郎通釈『中庸解・通釈』第 22 章 p.311～  
塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)

いつもありがとうございます。

本塾は藤樹先生の教えを学び、人間いかに生きるべきかを共に考える形で進めています。

1月は、新型コロナ感染の第 3 波が京阪神で広がっていたので休講にし、2月にコロナ対策を十分に行って、開きました。参加者は大阪からの初参加者を含めて 9 人でした。

3月は「中江藤樹・心のセミナー」開催予定日(6日)だった(9/25に延期)ので休講にしました。

2月は『中庸解』第 22 章でした。文章を皆で読んだ後、大意について次の様に説明しました。

「ただ天下において至誠の人である聖人にして、よく自分に賦与された天命の性を察し細大漏らさず尽くすことができる。よくその天命の性を尽くせば、よく他人の性も尽くすことができる。よく他人の性も尽くすことができれば、よく自他万物一切の性を尽くすことができる。よく自他万物の性を尽くすことができれば、天地自然が万物を育てることを進めることができる。万物を育てることを進めることができれば、天地と肩を並べて合一となる」。この節は、聖人の高い境涯を経文にしたがって藤樹先生が解明しておられます。

一方で、宇野哲人訳注『中庸』では、荻生徂徠(江戸中期の儒学者)の意見が取り入れられています。世を治めるにはリーダーが有徳であることに加え、諸制度の確立が必要というのは、現代にも通ずる考えだと述べました。

私たちが日常生活において直面する課題を解決するためには、出口治明『自分の頭で考える日本の論点』を紹介し、そこに書かれている、タテ(歴史はどうか)、ヨコ(世界ではどうなっているか)、算数(論理)の考え方や事例が大変参考になると述べました。

また、「日経ビジネス 2020.11.23 号」のジャック・アタリ氏「次世代の幸せを考えよう」を紹介し、現在の民主主義は危機を迎えている。個人の自由を強く掲げた民主主義、行き過ぎた市場中心主義から、他者のこと、次世代のことを考えた民主主義そしてマネーより生命を大切にする経済(①少肉多菜、②少糖多果、③地産地消、④食育と節食)に変えなければならないという意見に賛同すると述べました。

参加者からは「人の性、物の性を尽くすためには修業が必要だと思った」、「藤樹先生の徳治と徂徠の法治のことが理解できた」、「物事を判断するのにタテ、ヨコの情報を努力して集め、主体的に考えることが重要だと思った」、「今まさに直面している課題のヒントを得られた」、「少肉多菜について、不二製油の“大豆は地球を救う”は、近江商人の“三方よし”が基で良かった」等の意見、感想をいただきました。

学ぶは愉し！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。参加費は無料です。